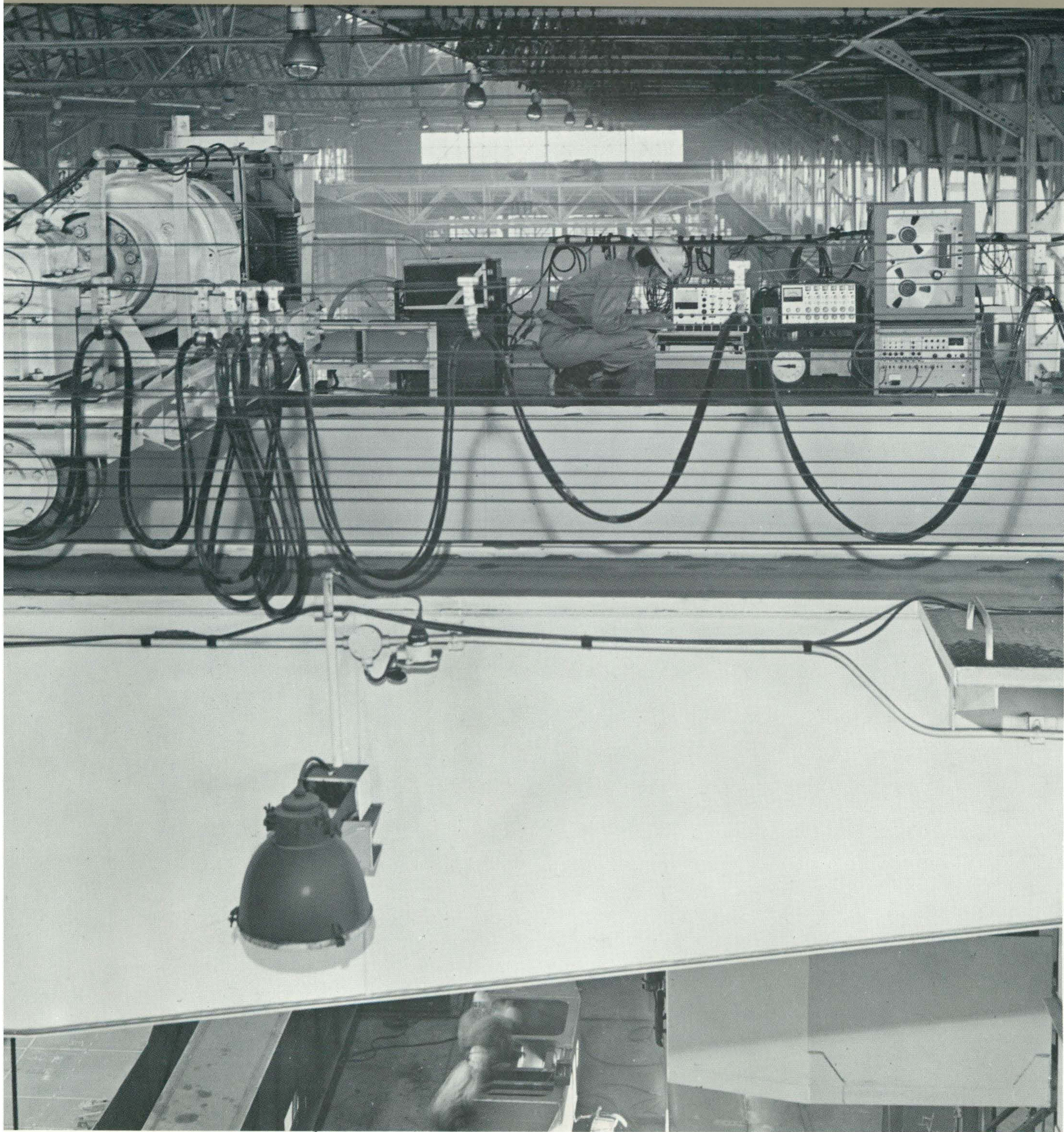




クレーンの飛躍的な 性能向上をめざして 実働荷重の記録

Great Improvement in Crane
Performance
Record of Actual Load

灼熱した鉄鋼の上を走る製鋼クレーンや岸壁で活躍する陸揚機など各種クレーンには、作業の高能率化をめざして、ますます高性能化、大容量化が要求されている。これらの要求を満たすためには、クレーンの中で主要な重量を占める構造部分の軽量化が必要である。このための最も効果的な方法としては、クレーン構造物の受ける実働荷重を正確には握し、それをもとにして強度を精密に検討することが考えられる。

日立製作所では早くからこの点に着目し、総合的な研究を進めてきた。すなわち、荷重ひん度計など種々の計測器を開発して各種クレーンの実働荷重を測定するとともに、数台の実働荷重疲労試験機（日立製作所で開発）によりクレーンの強度を検討してきた。現在はこれらの結果をもとにして、クレーンのより合理的な設計が進められている。

写真は天井クレーンについて実働荷重を自動記録しているところである。

（日立製作所 機械研究所）